

## ■ 編集だより

### 編集後記

当編集委員会は編集委員（20人）、編集事務局（5人）が毎月集まり、投稿論文の審査、雑誌の編集方針について議論をしている。

投稿論文は精力的な内容が多く未完成の段階でも読み応えのある論考が寄せられている。編集委員会では良い論文に完成していただきたいと査読の先生をはじめ委員が知恵を絞っている。辛口のコメントが出されることもあるが、素材が良ければ再投稿を促すようにしている。コメントが詳細にわたっていけば、評価されたと考えていただきたい。論文の骨子に関わるコメントからはじまり、用語の修正、誤字脱字にいたるまで指摘されていることもある。当学会誌がもともと医学博士論文となる論文を多く掲載してきた伝統とあって良いだろう。

英文誌への掲載が「業績」になりやすいことから、よくデザインされた研究は英文誌への投稿がされる傾向が続いている。当学会誌が14000人の精神科医に読まれていることを考えると英文雑誌とは異なるインパクトがある。そこで、臨床医学の基本は「症例」であることを鑑み、優秀な「症例報告」を多く募集する取り組みを始めた。その端緒として2009年神戸学会での興味深い一般演題を選び、投稿を促すこととなった。通常の査読を行なうが、精神医学・医療に寄与する症例報告となるよう編集委員が教育的なコメントもおこなうことが確認された。「症例報告」は簡潔・明確に書かなくてはならないのである程度コツも必要となる。当編集委員でもある仙波純一先生の執筆された「精神科症例報告の上手な書きかた」（星和書店、2008年）は投稿される方には大変参考になるだろう。

そのほかの雑誌刷新の取り組みも続けている。その一つとして、総会シンポジウムが多くなり全てを羅列的に雑誌に掲載することは困難になってきたことから、特集として各号2つのシンポをとりあげる方針となった。そのほかのシンポジウムは、従来から一般演題でおこなってきた電子版での提供を行ない、医学中央雑誌やMedline（当学会誌はMedline掲載の雑誌なので英文抄録は重要）からの検索が可能となるなど雑誌と同等の質を維持する。また、編集委員会企画として、学会理事による「巻頭言」、Psychiatry and Clinical Neurosciences誌（PCN誌）の優秀論文について著者著者が解説する「精神医学のフロンティア」、100年前の精神神経学雑誌を振り返る「精神医学百年」、PCN誌最新号の論文要旨の日本語訳「PCNだより」を掲載してきた。新しい試みとして、座談会などの新しい企画も進行中である。「こんな企画や内容を掲載したらどうか」といった前向きなアイデアをwabunshi@jspn.or.jp宛にメールをいただければ編集子としてはこの上ない喜びである。

細田眞司